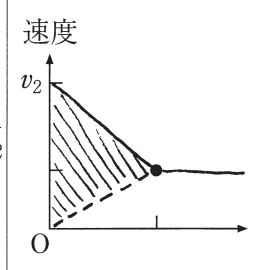
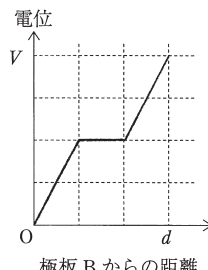
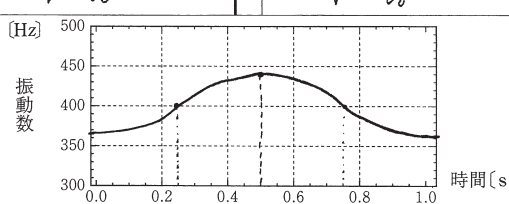


一般入試前期A日程2日目

物 理

I	1 $\mu N = T \cos \theta$	6 $\frac{1+e}{2} \sqrt{2gh}$	
2 $N + T \sin \theta = mg$	7 $\frac{(1-e)^2}{4}$ 倍	11 12	
3 $\frac{\mu mg}{\cos \theta + \mu \sin \theta}$	8 $-\mu g$	ア	
4 $\tan \theta = \mu$	9 $\mu g \frac{m}{M}$	イ	
5 $\sqrt{2gh}$	10 $\frac{m}{m+M} v_2$	イ $\frac{4\mu}{(1+e)^2} \frac{m+M}{M}$	

II	ア 語句 かウス	キ $\frac{1}{2} QV$	
イ	$\frac{2\pi \epsilon_0 Q}{S}$	ク $\frac{3}{2}$	
ウ	$\frac{4\pi \epsilon_0 Q}{S}$	1	
エ	$\frac{V}{d}$	ケ $\frac{3}{2}$	
オ	$\epsilon_0 \frac{S}{d}$	2	
カ	$\Delta Q V'$	金属板 C とコンデンサーの極板間には静電気力による引力がはたさくため、金属板 C には力を加えて引き抜く必要がある。この外力のする仕事は静電エネルギーを増加させるため。	

III	ア $\frac{2\pi}{T}$	ウ 0	
イ	$\frac{V}{V-v_0} f_0$	エ $\frac{2Vv_0}{V^2-v_0^2} f_0$	
1	オ 長 < カ 赤方		
2	記号 C 理由 恒星は惑星との重心を中心にして動く。重心は恒星と惑星の間にある。もっとも前方へ移動するの、恒星が観測者方向に最大の速度をもちるときであり、そのとき惑星はもっとも遅く後退する C の位置にある。		
キ	強めあう	コ $(n + \frac{1}{2})\pi$	
ク	$\frac{2L(1+h)}{c}$	3 4.2×10^{-11}	
ケ	$\frac{4\pi L h \nu}{c}$		